

PDFレポート【副島隆彦先生の最新言論から「日本国の真実の構造」を  
考える！】（編集後記45ページより）

どうもゆうです！

こんにちは！

さて、私は政治経済なんかを副島隆彦先生に  
長く学んでいるわけですが

副島先生がこの前ですが新天皇即位となって  
令和になったわけですが

それについて「日本の本来の構造」について  
大変重要な事を書かれていました。

私たちはとりあえず義務教育では  
日本は民主主義の国で～みたいな  
話を教わるわけですが

日本国は、外側が、王国（キングダム、モナーキー）でありながら、

内側が、

デモクラシー（代議制民主政体、だいきせいみんしゅせいたい）の、  
二重構造の、「入れ子」構造の国であるわけです。

立憲君主政（コンスティテューショナル・モナーキー constitutional  
monarchy）の国であります。

この考えしか他には成り立たない。

私はマレーシアから日本を見ることが多いのですが  
やはり日本は立憲君主政の国に見えてくるわけですね。

それで今日はその辺の日本国の構造について  
副島先生がかなり詳しく解説されていますので

見てみましょう！

編集後記で！



**【FXプレゼント動画】「もう一人のスーパートレーダー」  
笹田さんのWEBセミナー動画です！**



さてさて、ここ最近かなりの量の

FXを初心者から学んでいける、

そして上級者ですでに月7桁程の利益が出てる方も

ポートフォリオとして加えられるトレードルール、

および基礎をがっちり固められる

神レベルトレーダーのプレゼントをお渡ししておりますが

大変好評いただいておりますね～

それで通常は昔は使えて今は使えない、なんて

やり方を無料で公開してたりしますが

今回公開してるようなやつってのは

もろに現役で使えるやつだ、というのは実際のチャート検証で

多くの方がヒシヒシと感じていただいている通りです！

さて、それで今日は新しいWEBセミナーの録画版動画を

~~~~~

プレゼントさせていただきます！！

~~~~~

それで今回はもう一人の億トレーダーである

「ささっち」のWEBセミナー動画ですね！

CMA アカデミーでは実はレギュラー講師が

神レベルトレーダーの根崎さん以外に

スーパートレーダーのささっちゃん（笹田さん）もいて

毎週根崎さんと笹田さんが 1回ずつ、トータル週2回、

平日にチャート見ながらWEBセミナーやっています！

今日はその録画版の前半です！

かなり勉強になると思いますので

良かったらお時間あるときにゆっくりご覧くださいね～

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

**【FXプレゼント動画】**

**もう一人のCMAアカデミーのスーパートレーダー**

**笹田さんのWEBセミナー動画です！（前半）**

⇒ <http://chart-ma.com/cma/20190418sasada01/>

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

**さて、それでここ最近結構色々なコンテンツお渡ししてます！**

**まずPDFですとこちら。**

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

**【神レベルトレーダーから  
電子書籍13冊目「テクニカル分析」のプレゼントです！】**

⇒ <http://chart-ma.com/url/yuu/rep2/part5.pdf>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

あとは、根崎さんのWEBセミナー動画もお渡ししました！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

**【新動画】根崎さんのCMAスクール内の  
WEBセミナー（前半）を公開します！**

⇒ <http://chart-ma.com/cma/20190425nezaki01/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

**【新動画】根崎さんのCMAスクール内の  
WEBセミナー（後半）を公開します！**

**<http://chart-ma.com/cma/20190425nezaki02/>**

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ちなみにですが、

それ以外にも「超大量でスーパー有料級」

のプレゼントをお渡ししておりますが

以下のPDFにまとめてます！



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

PDF【今までお渡ししてる  
PDFや動画や音声などのまとめです！】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/13technical\\_analysis.pdf](http://fxgod.net/pdf/13technical_analysis.pdf)

(PDFの中にそれぞれの動画や音声や電子書籍のリンクを  
収録しております。)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

それで今回かなりの分量をお渡ししてるので

「全部は見られていないけど、

一部は見ている」という人は多いと思うのですが

実はもう事務局にこの無料の企画だけで

検証しっかりして利益出るようになったなんて方も

声が届いてるわけなので

是非ちょっと時間とって、学んでほしいな~とか思います。

特に上に PDF の中に動画とか音声とか PDF まとめてるんだけど

基本的には全部スマホなり IPAD とかのデバイスで

動画も音声も PDF もご覧いただけるので、

スムーズにそれらのデバイス使えば学べるかな? と

思います。

ちなみに・・・ちょっと補足しますと、

今週ってのは

ポンドがすごい弱い流れだったのだけど

そこで結構良いプライスアクションが日足から落とし込んで

1時間足～4時間足とかで売りで出ていましたが

例えば1時間足なら、ポンド円で5月15日に

日足の下をサポート抜けて戻った後の

売りサイン、エンゴルフンバーもよいサインでしたし、

5月16日にMA10 MA20をリバーバンドを形成してる

同じく売りサインエンゴルフンバー

5月17日に同じくリバーバンドの売りサインエンゴルフンバーが

出てまして、

140円台を突破しましたんで、

いずれもストップに到達せず、

利益が相当出てますよね？

そう・・・だから今学んでる内容って

もろに今の相場で使えて負けずに利益出せる方法なのだ

ってのがこれはもうリアルのチャートで分かると

思います。

だから今やってる方法ってのはもろに

現役のチャートで通用する方法なんですね～

それで重要なのが、

多くの人がおそらくポンド円も140円台割ったし

バンバン損失膨らませてるんだけど、

これは暴落といえるほどではないけど

そういう小暴落とかそういう多くの人損失出してるところで

利益計上できる、

これが根崎さんのCMAの本質かな？と私なんかは

思います。

実際のところ、

**【暴落で負けずに逆に利益に転換する方法】**

ってのは世間では知られていないけど

実はこの1ヶ月で学んだ方法でそれは可能なんです。

なので是非今回のセミナー動画だったり

今までのコンテンツ学びなおしてみてくださいね！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【FXプレゼント動画】

もう一人のCMAアカデミーのスーパートレーダー

笹田さんのWEBセミナー動画です！（前半）

⇒ <http://chart-ma.com/cma/20190418sasada01/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

PDF【今までお渡ししてる  
PDFや動画や音声などのまとめです！】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/13technical\\_analysis.pdf](http://fxgod.net/pdf/13technical_analysis.pdf)

(PDFの中にそれぞれの動画や音声や電子書籍のリンクを  
収録しております。)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

それで・・・今回ささっちのセミナー動画を

プレゼントとしてお渡ししておりますが

あなたに見て気づいてほしいのが

「一応上方向とか下方向とかある程度思惑はあるにせよ

結局 上に行っても下に行っても対応できるようにしている」

ってことですね。

良くあるのが こういうセミナーとかで

「今は上方向だから買い検討で」とかよくあると思うんだけど

「そうではなくて」

「買いでも売りでもサポレジのストーリー展開によって

それに付いていく、という思考方法」

を根崎さんやささっちは共通して持っているのに

お気づきになると思います！！



私が読者さんから質問でいただくものとしては

「予想しない、予測しないの意味が分からない」

ってことなんだけど

たぶんそれがよく分かったと思います。

現在価格が仮にドル円100円として

意識されてるサポレジが

上に101円のレジスタンス

下に99円のサポートがあったとします。

んでその時には「どっちに動くのかな～分からないな」

ですけども

後だしジャンケン的に、その後判断するんだけど

そこでどっちかに抜けていくわけですね。

例えば上に抜ければその後抜けたのを確認して

レジスタンスがサポートになったのを確認して

抜けた後の戻り確認して

プライスアクションで買いで入って

狙っていけば負けづらく、利益になるし、

また下に99円で抜けていったのならば

その後戻りを確認して売りのプライスアクションで

やっぱり売って　そこで負けづらく利益になるわけです。

だからそこで「サポレジのストーリー」を最初に描いていく

わけですが

どっちに行っても対応はできる、ってことですね。

この辺の思考方法はCMAで共有されてるものなんで、

「相場は予測、予想できない」っていうところから

こういう戦略になってるんで

その辺を踏まえておくとささっちが上方向で話していて

その後

「けど下に行った場合はこのサポレジを～～」

とか言ってる意味が分かりますね！

★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆

**【FXプレゼント動画】**

もう一人のCMAアカデミーのスーパートレーダー

笹田さんのWEBセミナー動画です！（前半）

⇒ <http://chart-ma.com/cma/20190418sasada01/>

★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆

それで、じゃあ「世間の多くの日本の個人投資家たちは

どうやってトレードしているか」

ですがやっぱり

そこは予想、予測しちゃってるわけですね。

上記の事例だと100円が現在価格なら

「よしこれは103円になるぞ」とか

「よしこれは98円になるぞ」とかですね。

それは博打でありますから、

やはり良い結果を生まないわけで、

多くの方がドル円が下落してきて、困ってる現状です。

一方CMAの生徒はそういうのがなくて

全然感覚が違うわけで

「上に行っても下に行ってもサポレジのストーリーに

あわせて

プライスアクションでエントリー、打って行く」

ってのをやってるわけですね。

だから結果になってる人がどんどん出てきてくれると。

ちなみに私が把握してるところでは

結果出てる塾とか教材って前の野田さんのやつもそうだけど

「予測予想しないで 相場の動きに合わせていき

シナリオ内で打って行く戦略」

を教えてるところばかりです。

だから予想、予測できない、という前提で、

スタートしてそこから戦略立てるのが

超重要なわけですね～～

はっきり言ってしまえば私たち人間は

神様じゃないですから

相場の需給、自由市場ってのが機能したすと

誰も予想とか予測はできないですからね、

神様になろうとしないことです。

ただただ相場ってのは神のみぞ知るところなんだけど

アダムスミスって経済学者が

「神の見えざる手」って言ったんだけど

その神様が見えざる手で

神がサポレジを割らせたら、それに従って行く

~~~~~

という考え方がトレードにおいては正しくなるわけですね。

ちなみに私は日本人なのでよくこの感覚が分かりますが

「神」という感覚、宗教感覚が出てくると

途端に怪しい響きになるわけです。

ただこれは私もマレーシアからこの文章書いてるけど

私たち日本人って「宗教音痴」なわけですね。



ぶっちゃけ、キリスト教とか仏教とかイスラム教とか

あるけど本当はあまり分からないわけです。

ただ欧米のトレーダーたちってやはりキリスト教徒が  
多い。

これは知っておかないといけなくて

やっぱり土日休みだから休みますね。

それで彼らはやはりこの「神の見えざる手」を

すごい重視するわけで

例えばフィボナッチトレードというのをささっちは

教えていて



このフィボナッチも「誰も説明できない」んです、本来は。

だって、相場の戻りが23.6%とか38.2%とか

あとは50%ならまだ分かるけど

61.8%とかで

「ピタ」っと止まることってかなりのケースで

あるわけですね。

フィボナッチは戻しの計測なんかでよく使われるのだけど

使っていると「ある種の気持ち悪さ」はあって

例えば戻しの38.2%で利益確定したらですね、

それが一気にそのラインから反発して相場が戻ってくる

なんて日常茶飯事です。

が、誰も「なぜフィボナッチ数列で大衆が投資行動を

行うのか」は説明できません。

ただ、やっぱりフィボナッチは機能する。

~~~~~

例えばポンド円で日足見てみましょう。

2019年の1月3日の安値から、

2019年の3月14日の高値まで

グイーっとMT 4の「F」って書いてるフィボナッチを

引っ張ると・・・

確かに23.6%戻しあたりのゾーンで

サポートとして反発しまくってたわけですね。

そしてそれが以前1月28日には

結果的にはレジスタンスになっている

のも見えると思います。

これが「神の見えざる手」の一つです。

だから相場ってのは私たち人間の英知を超えて

動く部分があって、

だからアダムスミスという経済学者は昔

「神の見えざる手」っていう言葉を言いましたよね。

そして、欧米のトレーダーたちはキリスト教徒が多いですが

彼らはそういう部分を重視しますから

そこで「自分たち人間が、相場を完全に予測、予想できる

という傲慢さ」は持たないわけです。

(また、欧米人が投資をやるのは「労働=罰」という

宗教観があるから。

だから日本のニートの人が以前言っていた

「働いたら負け」っていうのは、実は、欧米のキリスト教の

労働観です。

欧米トレーダーはだから スキヤルは労働からやりたくない。

それよりは、労働作業が少ない日足でやるんです。)

私たち日本人の場合 この辺がどうしても分からないですから

自分で相場という神の見えざる手を予測できると

考えてしまいがちですが

それはもろにキリスト教圏、イスラム圏もそうだと思いますが

それらのトレーダーはそのように考えないのですね。

んでその考え方が発展すると

「相場は予測予想なんて無理だから

サポートレジスタンスのストーリー描いて

動いたほうにあわせて エントリーしていく」

っていう考え方になるわけです。

私ゆうは日本人なため、無宗教ですが

こういうのは投資を学ぶ中でお金増やす中で

そういう神学的な部分が多めに

欧米トレーダーと日本人トレーダーの違いとして

存在してるのに気づいたものです。

これ結構な発見だと思うんだけど

この辺が分かると

**「相場には逆らえないから、**

**ただ動きに合わせてエントリーしていく重要性」**



が分かるんですね。

そんでこの辺が分かるとささつちが

「上に行った場合」と「下に行った場合」

両方解説してる意味分かるかと思います。

★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆

【FXプレゼント動画】

もう一人のCMAアカデミーのスーパートレーダー

笹田さんのWEBセミナー動画です！（前半）

⇒ <http://chart-ma.com/cma/20190418sasada01/>

★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆



結局トレンド捕まえば良い



それでピンバーでもエンゴルフンバーでも

検証していて分かると思いますが

トレンドを捉えられれば、まあかなりの利益になる

わけですね。

最初にリスクリワードで

例えば 1 万円の損失で 2 万円の利益確定としたときの

1 : 2でOCO注文で設定するというものがありますが

それと分割決済なんかで併用して

ダウ理論ベースでどんどんストップを移動して行って

トレールする方法ってのは

学んだと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

PDF【今までお渡ししてる  
PDFや動画や音声などのまとめです！】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/13technical\\_analysis.pdf](http://fxgod.net/pdf/13technical_analysis.pdf)

(PDFの中にそれぞれの動画や音声や電子書籍のリンクを  
収録しております。)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

それでここで「なるべく大きなトレンドを取りたい」

って話になるんだけど

ここでやはり強いのが以前に学んだ

通貨間相関ですね！！

一応これは以前 PDF にしています。

CMA の優れた生徒の大室さんがセミナーやってくれました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

PDF【日本で聞きなれない「ポジションサイジング」

の考え方は欧米トレーダーでは常識なのか??】

[http://fxgod.net/pdf/positions\\_size\\_mataf.pdf](http://fxgod.net/pdf/positions_size_mataf.pdf)

(46 ページから MATAF の説明)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

それでここで「MATAF マタフ」の使い方をちゃんと書いてますが

実際の仕事の大きな流れとしては

MATAFで 強い通貨と弱い通貨探すってのが最初にやると

いいですよ。

ちなみに

「強い通貨」と「弱い通貨」の考え方なんですけど

MATAFで Currency Index を使えば

ちょっとサイトの的に重いですが

全ての通貨の強弱をチャートで比較できますよね。

そこで日足ベースで MATAF は見るとよいです。

それで一番簡単なのが「ダウ理論の高値安値切り上げ、

切り下げの理論的に、

この通貨は下がってるかな、上がってるかな」

とやるのが一番簡単ですが

ここで強い通貨はダウ理論的に上昇

弱い通貨はダウ理論的に下落ですが

**その強い通貨 + 弱い通貨**

の通貨ペアを主に狙っていくと良いですよ。

それで例えば強い通貨が2通貨、弱い通貨が2通貨見つかったら

それらの強い通貨と弱い通貨の通貨ペアの日足を

それぞれ見ていくって流れです。

例えばドルと円が強ければ、ドル円は無視ですし、

フランとポンドが弱ければポンドフランは無視ですが

それでそういう場合だとその日チェックしたい通貨は

ドルフラン、ポンドドル、フラン円、ポンド円、

ですよね。

それで日足でささっちが言う、

サポレジ前後の攻防見ていきまして、

そこで一度抜けて戻ってきたときを狙うわけですが

そこで若干待ちが発生しますがここは待つて、

それでその動きが出てきたら

日足から4時間足とか1時間足に落として

プライスアクションで

しっかり検証したピンバーやエンゴルフンバーで

狙っていくということですよね。

この大きな工程を踏むと、滅多に負けなくなりますよね。

そしてプライスアクションで利益出るときに

ダウ理論のトレーリングストップルールだと、

やはり1 : 3とか1 : 5以上が出やすくなります。



結構色々な戦略があるんだけど

上記の戦略なんかはかなりはまりやすい戦略ですから

デモで練習してみるといいでしょう。

だからよく「トレンドに乗ると、稼げる」とか言いますが

そのトレンドを見つけるちょっとした工夫ってのが

あるわけですね。

例えばプライスアクションでもですね、

MATAFのCurrency Indexとかチェックして

どう見てもドルと円がダウ理論的に上昇トレンド

形成してる強い日で

ドル円やっても仕方ないわけですね。

逆にポンドがその日弱い、ダウ理論的に下落トレンドなら

ポンドドルかポンド円やったほうが良いとなります。

プライスアクションも色々な通貨で出てるのですが

それも通貨間相関なんか使くと

相当スムーズに勝率はあがりますよ〜って話です。

ちなみに CMA ではこの辺の通貨間相関なんかは

トモヒロ君っていう月300万円以上はやってる生徒さんが

結構セミナーで教えてたけど

これらも全部知識ですが

結局知ってるか知っていないか、の世界で

~~~~~

大きな差が出るのが近年の傾向かと思います。

~~~~~

それでそれらの知識全てが集積してるのが

CMA アカデミーなんですが

今回のささっちのWEB セミナーでは

「シナリオ立てて、動きについていく」

っていう方法論を学べると思いますから

ぜひ お時間あるときにでもご覧くださいね～



=====編集後記=====

さてさて、私ゆうは政治経済や政治思想なんかの勉強については  
副島隆彦先生に長く、学ばせていただいているのですが

今月5月に副島先生が新しい投稿として  
「日本国の本当の構造」について色々説明されていまして

大変勉強になる内容だったので  
見てみましょう！

実際、政治学とか学んでいくとかなり面白くて  
「私たちが義務教育で洗脳されてきた内容」と  
「実際の分析される日本の構造」

ってのはまあ随分違うわけですね。

それで特に日本は実際は  
「立憲君主制の国である」という副島先生の分析が  
出ているわけですが

これは初めて聞く人もいるかもしれませんが  
よくよく考えると当たり前のことでもあります。

それで今日はその副島先生の最新言論から  
学びましょう！

=====  
新天皇の即位で、天皇家の代替わりが行われた。

投稿者：副島隆彦

副島隆彦です。今日は、2019年5月4日（土）です。

4月30日に、明人（あきひと）天皇が退位して、  
上皇（じょうこう）となり、翌日5月1日に、

徳仁（なるひと）天皇が即位した。

私は、もう、今上（きんじょう）天皇というコトバは使わない。  
こんなコトバはもう要らない。

日本国は、世界に向かって、  
平和に新国王（しんこくおう）を迎えて、世界に向かって、  
まるで中世国家（ちゅうせいこっか）のような、  
王国（おうこく）としての姿を強調した。

私、副島隆彦が、これまでずっと主張してきたとおり、  
日本国は、外側が、王国（キングダム、モナーキー）でありながら、

内側が、デモクラシー

( 代議制民主政体、だいきせいみんしゅせいたい ) の、

二重構造の、「入れ子」構造の国 である。

立憲君主政 ( コンスティテューショナル・モナーキー  
constitutional monarchy ) の国である。

この考えしか他には成り立たない。

世界中から、すなわち、諸外国から見ても、  
どうしても、このように見える。

日本国天皇は、国王なのであって、  
皇帝 ( こうてい。エンペラー、インペラトール、ファンデイ ) ではない。

今も世界中にある王国 ( キングダム ) の  
国王 ( キング ) のひとつである。

日本の憲法学者たちも、政治学者たちも、  
このように

「日本国は、外側が、王国（憲法1条から8条）であり、  
その内側が、

民主政治体制（デモクラシー。「国権の最高機関は国会」とする  
憲法41条。）になっている、  
二重構造の国である」とする、

私、副島隆彦のこの学説を受け入れるべきである。

私は、法学部出（で）であるから、  
大学時代に憲法学を学んだが、そのとき、東大で、

戦後憲法の護（まも）り役であった  
宮沢俊義（みやざわとしよし、1899－1976年）、  
芦辺信義（あしべのぶよし、1923－1999年）の  
憲法の本を読んでいる。

この2人が、日本国憲法の成立過程の、  
生（なま）臭い、アメリカ政府による製造であり、  
日本国民に下げ渡したものである、という事実を、

「そんなものではありません」ことにして、隠し通した。

ヘルメノティーク

（ Hermeneutik 解釈学。英語で言えば、ハーマニューテックス）、



すなわち憲法の条文の1条、1条を細かく、  
細かく解釈、説明することだけに徹して、  
それ例外はやらないことにした。

条文を解釈すること以外はしない。

それ以外は、法学の基礎学問、土台の学問である、  
法制史や、法（ほう）制度論や、  
法哲学(私、副島隆彦は、× 哲学という言葉は、キライだ。  
正しくは、ジュリス・プルーデンス juris-prudence、  
法についての思索、熟慮 という) でやってくれ、

ということにして、大きく誤魔化（ごまか）した。

日本国民の目と思考を、真実から逸（そ）らさせた。  
アメリカ政府（占領軍）の意思、意図もそこに働いていた。

「憲法制定権力（けんぽうせいいていけんりよく）」  
という理論があつて、

ドイツのカール・シュミットという、優れた大（だい）学者が、  
これを唱えたときに、はっきりした。

「憲法が、作られるときに、その背後、土台に、  
本当の権力者がいる。その本当の権力者を探り出せ。それが、主権者だ」

という理論である。

ということは、アメリカ政府が、日本国の主権者だ、  
という政治分析も成り立つのだ。

カール・シュミットと、大（だい）思想家のマルチン・ハイデガー の、  
ふたりだけは、ドイツの敗戦後も、

「 アメリカのヤンキーともめ。私は、  
あんな、低（てい）知能の連中には、屈服しないぞ」と、

山に籠もって、死ぬまで抵抗した。

ヤンキー Yankee というのは、  
ニューヨークのユダヤ人  
（ヤンクというは、臭いチーズを食べるオランダからの  
ユダヤ人という語源） のことであって、

ただの、アメリカ人への蔑称ではない。

この秘密を、アメリカ国民でも、今は、公然とは言わなくなった。  
それでも、ニューヨーク市の、北の方、150丁目ぐらいに、  
ヤンキー・スタジアムが、今もあるじゃないか。

上記の東大の2人の憲法学者が書いた  
憲法教科書は、元首（げんしゅ）問題に、拘（こだわ）っていた。

そのことを、私は覚えている。

今は、天皇が国家元首（ソブリン、sovereign ドミナント、dominant プリンチペ principe）であることに、  
異論を言い出す人はいなくなった。

日本は、王国（君主国、王様の国）なのである。

私はその末流であるが、佐賀の副島氏は、  
幕末の尊王（そんのう）の家系である。

私は、敗戦後の8年目（昭和28年、1953年）に生まれたので、  
全部、壊されていたので、  
尊王思想を受け継いでいない。

ただ、飲んだくれの医師だった  
私の父親（最後の年の海軍に応召、  
岡崎市にあった軍医学校で終戦。  
ポツダム少尉で除隊。1923年、大正12年生）から、

「隆彦。あの戦争は、国民、皆んなで戦ったんだぞ」  
という言葉だけが今も、私の耳に残っている。

特別な人がいてはいけないのである。

国家体制上の生まれながらに特別な人たちは、居てはならない。

それがデモクラシーである。

人間平等主義（エガリタリアニズム）だ。

ただし、これは、国家体制から、  
すべての人（法人も）は平等の取り扱いを受ける、  
ということであって、

これを、「法の下での平等」（イークオール・アンダー・ザ・ラー）という。

だが、人間は、現実の世界では、平等ではない。

背の高さ、低さも、姿形（すがたかたち）も、美醜も、  
知能の能力（頭の良し悪し）も、  
生まれた家の貧富の差もある。

障害者として生まれた可哀想な人たちもいる。

人間は、現実には平等ではない。

ただし、生まれながらに、天皇家（皇室）だけは、  
特別な人たち、ということにして

制度（国家体制）として残した（憲法 1 条から 8 条）。  
このあと、第 9 条が、平和憲法、戦争をしない、軍隊を持たない。

だから、中学生だった私は、  
「民主政治＝人間は皆、平等」と、学校で教えるのに、  
どうして、天皇家という特別な人たちがいるのか」と私は自問した。

教師たちに質問しても、誰もこの疑問に答えてくれなかった。

私が、持ったこの疑問を、素朴に持つ日本人は、  
今も相当多く居る。

だいたい、中学生ぐらいで持つ。

「なんで、皇室に生まれると、  
あんなにきれいなドレスを着れるの。  
いいなあ。私も着たい」と、

素朴に疑問に思う女性もたくさん、いる。

だが、日本国内ではこの疑問は、口にしない、タブーになっている。

誰も、この疑問に説明をしてくれない。  
政治学者も、法律学者も、何も答えない。

「そういうことは、言ってはいけないのよ。  
昔からそういう風になっているの」

と、娘は、母親から窘（たしな）められることになっている。  
分かりますか、これが、私たちの日本という国です。

ちなみに、私、副島隆彦は、×「民主主義」というコトバは、  
使わない。

× デモクラティズム democratism というコトバはない。

デモクラシーは、紀元前 450 年ぐらいに、古代アテネの、  
本当に"賢帝(けんてい)" だった、

ペリクレスが、我慢に我慢の指導者ぶりを発揮して、  
アテネをよく統治したときに、生まれた。

それを 30 歳ぐらい下の、ソクラテスが、言論人として、よく支えた。

だから、デモクラシーとは、代議制 = 選挙で選ばれる、  
デモス（民衆）の代表による、政治体制（政体）のことである。

それから、のちに、ゲルマン民族（諸族）の、

” チュートン（トイトブルク）の森” のゲルマン民会（みんかい、  
Gemeinde ゲマインデ）からも、democracy は生まれた。

だから、デモクラシーは、「民主政治」と訳すべきであって、  
×民主主義 は、誤訳であり、間違いのコトバだ。

× 民主主義 というコトバを、平気で使う人は、  
知識人としては知識が足りない。

東大系の政治学者は、皆、「民主政治」を使う。

× 民主主義を、みんな、もうやめた方がよい。  
ソシアリズム socialism 社会主義のような、  
イズム -ism と、言っていないでしょう。

デモクラシー demos-cratia は、  
「デーモス」（demos 民衆、大衆）の代表者たちが、  
政治権力を行使する、  
「クラティーア」（cratia、制度、体制、支配秩序）のことである。

だから、前の方で、私が説明したとおり、

日本国の、国家体制は、外側の殻（から）が、  
立憲君主制（国王の権限が憲法によって制限されている君主政体）  
であって、その裡側（うちがわ）が、デモクラシーになってるのだ、と、

このように考えるしかないのだ。

今や、日本の憲法学者も政治学者も、  
この私の考えに従うしかないはずだ。

難（むずか）しい、あれこれの、専門家の議論に持ち込んで、  
私を騙せると、思わない方がいい。  
国民を騙（だま）してはいけない。

それから、もう一つ。

正確には「日本国民が主権者だ」という考えは、間違いである。

日本国は、国民主権（こくみんしゅけん）だと、  
憲法学者たちも解釈（かいしゃく）するが、

それは、「主権（ソブリンティ sovereignty）の存する国民  
は、・・・」と、憲法典に、前文を含めて、3カ所出てくるだけで、

それだけだ。

「主権者国民」と言う言葉は、短絡的で知恵の足りない、  
近代学問（モダン・サイエンス）を勉強したことのない人が  
使うコトバだ。



日本のリベラル派は、この「国民が主権者」という言葉に、  
継（すが）り付く。その分、あまり知能が高くない。

それは「お客様は神さまです」に、近い、  
「消費者（しょうひしゃ）主権」というコトバの、馬鹿らしさ、  
とよく似ている。

企業が、客、国民を騙（だま）して、商品を買わせるように仕組む、  
ときの、猫なで声の、いやらしいコトバだ。

正しくは、国民の、代表者たち（レプレゼンタティブス・オブ・ザ・ネイ  
ション representatives）が、

日本国の主権者（ソブリンテイ sovereignty の保持者）である。  
国民の代表者「たち」に国家主権が在る。

だから、憲法 41 条以下で定める  
「国権の最高機関は、国会である」のとおりであり、  
選挙で選ばれた、国会議員たちという人間の集団が、主権を持つ。  
そして、そこから選ばれる、内閣（ないかく、キャビネット）は、  
主権の内の、

行政権、国家業務の推進の権限（エグゼクティブ・ライツ）だけを  
持っている。

だから、日本国の意思は、対外的には（世界に向かっては）、  
閣議で決定したもの、である。

内閣総理大臣（首相。プライム・ミニスター）も含めて、  
内閣（キャビネット）に行政権（ガヴァメント）が有る。

「政府」と言うのは、広義（こうぎ、広い意味）では、  
国民議会（国会）を含むが、狭義（狭い意味）では、  
内閣（政権）だけを指す。

主権者とは、政治学では、権力者、支配者のことである。

政治学（ポリティクス politics）という学問では、  
厳格に、そのように決まっている。

だから、主権者・国民と書くと、大勢の人である国民（民衆）が、  
大勢の人である国民（民衆、大衆、非統治者）を、支配、管理する、  
ということになる。これは論理矛盾である。

支配者は、少数でなければいけない。民衆（国民）は、常に、  
非統治者（ひとうちしゃ）である。

非統治者（＝ 支配される者たち）が、  
統治者（支配者、ルーラー）と、同じだ、というのは、幼稚な考えだ。

愚かな考えだ。それは、「民衆が、支配者だ」という、  
愚劣な、コトバとなって、人類の20世紀（1900年代）を、  
覆（おお）い尽くした。

それで、人類（人間）は、世界中で、  
悲惨、無惨、極（きわ）まりないことになった。

ロシア革命と、中国革命 の、ふたつの、  
人類の大（だい）実験で、夥（おびただ）しい数の人間が、殺された。

銃殺刑にされた。収容所でもたくさん、死んだ。

だから、1917年からの、ロシア革命の時、  
指導者のレーニンによって作られた、「プロレタリア独裁」というのは、  
大間違いの考えだ。

「民衆による独裁」という、思想が、どれぐらい、  
愚かで、無惨な考え（政治思想）であったか、  
私たち、今の人間は、あれらを、徹底的に、解剖して、  
切開しなければいけない。

「プロレタリアート（労働者階級）による、  
政治的な独裁（ディクテーターシップ）を、肯定する」という思想が、

どれぐらい、その後の、人類（人間）に、害悪と、迷妄と、  
残酷な結末を、もたらしたか。

ロシアの民衆、労働者にとって、大変な迷惑だった。  
中国民衆にとっても、極まりないことだった。

共産党の幹部や、高級軍人たちが、  
ロシアでは、80万人とかが銃殺刑になり、

400万人ぐらいの民衆が、シベリア送りになった。

中国でも、あの文化大革命（1966年から1976年の10年間）で、  
2300万人の  
党幹部や、民衆が殺された。

今、人類（人間）は、この2つの大（だい）実験の大失敗の、  
大きな反省の上に立って、生きている。

一番、苦しんだのは、当の、ロシア人と、中国人だ。

だから、「国民が主権者」で、  
「国民が、国民を支配し、統治する」という、

愚か極まりないコトバを、私たちは、もう使っては、いけないのだ。

この言葉自体に、大きな過（あやま）ちがある。

私たちは、綺麗（きれい）ごとの、理想主義によって、  
何ごとか、大変な、進歩、発達が出来ると思わない方がよい。

私たちは、何ごとも、深く、深く、疑いながら、  
慎重に生きなければいけないのだ。

一見、立派そうな、美しい言葉には、大きな、  
欠点と策略が潜（ひそ）んでいる。

だから、今の北朝鮮のような、プロレタリア独裁の思想が残っていて、異  
常な政治体制が続いていて、北朝鮮の民衆が、ヒドい目に遭っている国は、  
急いで、打ち倒されなければいけない。

民衆を救い出さなければいけない。  
すでに800万人ぐらいが餓死しただろう。

あんな、気色の悪い独裁者の、  
ペクトの血（（白頭山=はくとうざん=の英雄神話、作り話）  
で統治されている、生神（いきがみ）さま（金日成の血族）が

支配する国を、世界が許しておいてはいけない。

今の金正恩のおじいさんの、  
金日成（きんにつせい、キム・イルソン）は、  
旧ソ連政府が、モスクワにいた朝鮮族の 若い元気な男を、

戦争が終わった直後に、連れて来たのだ。

本物の 朝鮮の民族独立運動（日本の植民地統治と戦った）の英雄の  
金日成は、日本の陸軍士官学校の、  
ソウル(京城) にあった分校を出た男だ。数人いたらしい。

皆、戦闘で死んでいる。これが真実だ。

だから、今の日本は、国家体制（=憲法体制）上、  
国民の代表者 である議会の議員たちという団体が  
主権者なのである。

こう考えないと、理論の辻褄（つじつま）が合わない。

アメリカ合衆国が、典型であるが、  
王政（国王の権力。イギリス国王ジョージ3世）を否定して、

あるいは、  
打ち倒して成立した  
（1776年、独立宣言。1783年、イギリス国が独立承認）。

共和国（リパブリック。王様がいてはいけない国という意味）  
であるアメリカ合衆国は、建国後に、  
「誰が、ソブリン（主権者）なのか」の議論で困ってしまった。

議論で揉（も）めた。

初代大統領のジョージ・ワシントンには、主権はない。

だから、主権者は、上院議会（セネト、the Senate）、ということに、  
苦し紛れで決めた。

アメリカの上院の議員たちが、Senators セネターズ である。

だから、アメリカ合衆国は、戦争の開始の宣言  
（ウォー・デクラレイション）は、正式には、アメリカでは、  
上院議会の決議で決まる。

宣戦布告は、歴史的に国王の権限だ。

だから、主権者は、今では多くの国で、王様がないので、  
国民議会という、

国民の代表者（代理人、レプレゼンタティブズ）が保持している。  
このように考えないと、理屈（理論）が通ないのだ。

この他に、ドイツのハンス・ケルゼンの  
国家学、憲法学、国法学（シュターツ・レヒト）を受け継いだ、

清宮四郎（きよみやしろう）、という悪い憲法学者がいて、

彼が、東大の 憲法の授業の、「憲法 I 人権」ではない、  
「憲法 II 統治機構（とうちきこう。すなわち、国家体制論。支配）」を  
受け持った。

「憲法 I 人権編」は、前述した、宮沢俊義（みやざわとしよし、  
しゅんぎ）が、受け持った。

このように、東大法学部の「憲法 I」で、「人権、人権、いろ  
いろの人権、人権のカatalog」と、教えておいて、

そのすぐあとに、清宮四郎が出てきて、バーン、と、  
「はい、統治（とうち。ガヴァーメント）」と教える。



この瞬間に、諸人権は、押え付けられる。

だから、「諸（しよ）人権は、無上、至上のもの」と教えておいて。

ところが、そのすぐあとに、「憲法Ⅱ」で、

「はい、統治」、「このように、国民を押え付けなさい」となる。

これが、官僚養成学校である、東大法学部の 秘密 だ。最大の秘密だ。

分かりますか。

私、副島隆彦が、あからさまに、このように、

日本の国家体制の、成り立ちと、構造の秘密を、教えないと、

知能の低い、他の日本人の知識人たちでは、

世界基準（ワールド・ヴァリューズ）に合わさせた、

知識の骨格が出来ていないので、ダメなのだ。

私は、最近、自信を持って、このように言えるようになった。

東大を出ているわけでもないのに（笑い）、アハハ。

私が、新天皇即位で、思い出すのは、  
3人の日本史の学者のことだ。

久米邦武（くめ・くにたけ、1839－1931年）と、  
重野安繹（しげの・やすつぐ、1827－1910年）と、  
津田左右吉（つだそうきち、1873－1961年）のことだ。

この3人が、明治から大正、昭和にかけて、  
この国で、一番、優れた歴史学者だった。

久米邦武（くめくにたけ）は、1892（明治25）年、論文を書いて、  
「神道は祭天の古俗なり」という重要な学問的な定義を行った。

この「 神道（しんとう）は 神話（しんわ）であって、  
祭天（さいてん）の 古俗（こぞく）に過ぎない 」  
というコトバが、今も、もの凄く重要だ。

「日本書紀」と その他に国家の古文書に書かれている、  
神道の儀式（ぎしき、リチュアル ritual）は、  
祭天（さいてん）、即ち、「天（てん）を祭（まつ）る」、古俗（こぞく）、  
古くからの習俗（しゅうぞく）、習（なら）わし」である、と断定した。

神話（ミス、myth、すなわち、作り話）を事実だと、  
学問の名で行ってはならない、とした。

久米は、明治の初めの権力者たちの欧米視察に随行した学者として、  
欧米近代（きんだい、モダン modern）の

サイエンス（science、スチャンス、スキエンザ、近代学問）に  
従った学問によって、これらの伝統的な古俗を冷静に、  
合理的に研究しなければいけない、とした。

久米邦武は、この論文を発表したことで、やり玉に挙げられて、  
全国の神道家（しんとうか）、

神主、神官たちから、強く非難され、攻撃された。

それで、東京帝国大学の国史 こくし、

東大系だけは、日本史と言わないで、国史と言う ) の教授を、

その年のうちに、辞めさせられた（当時は、非職=ひしよく=と言った）。

2人目の、重野安繹（しげのやすつぐ）も、同じく、  
近代学問（モダン・サイエンス）としての冷静な歴史学を志した。

重野安繹の業績については、今日は書かない。

3人目の、津田左右吉（つだそうきち）は、西暦720（養老4）年に成立した、「日本書紀」（どうも、「古事記」は、それから百年後ぐらいに、それを漢文に書き直されたものだ）の記述の、

「聖徳太子の存在性は疑わしい」の箇所などを、1939（昭和14）年に、右翼の、蓑田胸喜（みのたむねき）、三井甲之（みついこうし）から糾弾された。

そして翌年、文部省から、津田の4冊の論文集が、発売禁止（発禁＝はつきん＝処分）にされ、

早大教授を辞めさせられた。1919年刊の『古事記及び日本書紀の新研究』と、1924（大正13）年刊の『神代史の研究』が、主著である。津田左右吉の研究は、戦後の日本史学者たちの模範となった。

だから、私、副島隆彦は、この3人の優れた先達（せんだつ）に倣（なら）って、神話のようなものを、無上（むじょう）にありがたがる風潮に強く反対する。

戦前に、天皇は、現人神（あらひとがみ）にまで  
祭（まつ）り上げられた。

現人神というのは、生神（いきがみ）、生き神さま、である。

天皇を、生き神 として、祀（まつり上げて、  
信仰の対象にしたことは、国家体制として大間違いだった。

だから、最後は、広島と長崎に原爆を落とされて、打ち倒されて、  
日本の国家神道（こっかしんとう）は、木っ端みじんにされて、  
滅んだのだ。

それまで、全国の神官（神主）は国家公務員だったが、  
敗戦後は、その資格は剥奪された。

神話（すなわち、作り話）なんかを、真に受けて、  
信じ込んで、ヘンな国家体制なんか作ると、最後に必ず、  
こういうことになるのだ。

今の天皇家（皇室）は、これらのことを重々（じゅうじゅう）、  
腹の底から知っている。

それが、昭和天皇という人だった。

「私たちは、バカだった、愚かだった。知能が足りなかった。まんまと騙された。だから、戦争に負けたのだ」と深く反省した。

昭和天皇は、このあと、日本国憲法という'座敷牢'に、  
静かに入っていった。

その前は、天皇は、帝国憲法（明治憲法）よりも上にいた。

だから、今の天皇家は、神式の儀式を強調しないで、  
コソコソと宮中三殿で行う。あれでいい。あくまで天皇家の儀式である。

だから、秋篠宮（あきしののみや）が、

「あまり天皇家の儀式に、お金を掛けないでください」と発言して、  
安倍首相以下のバカ右翼たち が、仰天したのだ。

今の天皇家に一番、弓を引いているのは、  
このバカ右翼たちだ。それと狂った政治宗教を持っている者たちだ。

私が、もう一つ、知識人として思い出すのは、

内村鑑三（うちむらかんぞう、1869－1930年）のことである。

クリスチャン（アメリカのカルヴァン派プロテスタント、アメリカカン・  
ボード に学んだ。同志社の創立者、新島襄＝にいしまじょう＝  
が資金を出して留学させてくれた）である内村鑑三は、

1891（明治24）年の1月に、  
第一高等学校（今の東大の駒場、教養学部）の始業式で、

ご真影（ごしんえい、天皇の写真）と  
教育勅語（きょういくちよくご）に拝礼せず、

自分だけ直立のままだった。  
この時、内村鑑三は、まだ若い21歳の教員だった。

そのことが、大騒動になって、却（かえ）って、  
内村鑑三は、有名人の「キリスト者」で、  
キリスト教の伝道者で、日本の独特の思想家 になった。

私は、あ那时的の内村鑑三のような人が、  
今も出てくるべきだと思っている。

今は、流石（さすが）に、奉安殿（ほうあんてん）とか、  
ご真影（ただの写真だゾ）に 頭を下げないと、

不敬罪（ふけいざい）で逮捕されて、処罰される、  
ということはない。

だが、ほんの74年前まで、日本は、そういう国だったのだ。

今の日本国憲法が出来るまで、  
日本には、人権（じんけん）というコトバは、無かったのだ。

本当だ。

人権（ヒューマン・ライツ）の思想は、ほんの75年前まで日本になかった。

吉野作造（よしのさくぞう、1878－1933年）が、“大正デモクラ  
シー”で、「中央公論」誌 に、

民本主義（みんぽんしゅぎ）というコトバで、  
盛んに、人権思想を説いたときにも、  
国家主権（ しゅけん、ソブリーンティ、sovereignty ）は、

天皇にあったので、民主主義（みんしゅしゅぎ）とうコトバは、  
使えなかった。



それで、遠慮して、ちょっと工夫して、  
吉野作造は、民本主義（みんぽんしゅぎ）と言うコトバを、使った。

明らかに、democracy デモクラシー（代議制民主政体）の訳語である。

この時には、もう、明治時代の  
「自由民権（じゅうみんけん）運動」の時代は過ぎ去っている。

「民権（みんけん、民衆の権利）」の反対語、対立語は、  
「官憲（かんけん）」である。× 官権とは言わない。

今の 日本国は、国民の多くが貧乏のまま、  
ひどい不況のまま、優れていない（つまり、愚か者の）  
政治指導者たちがいて、国民生活が圧迫されたままの、

「貧乏でもいい、平和で有りさえすれば」の、  
ギリギリの選択をしながら生き延びている。

今の日本国の最大の弱点は、指導者である。

国民の各層はしっかりしているのに、  
政権政治家たちの能力が、あまりにひどい。

あまりにも低劣な、愚かな者たちが、一番上にいる。

だから、日本は、元気が出ない。碌な国家運営をしていない。

諸外国の指導者に現われるような、優れた見識と、  
ずば抜けた能力を持ち、優れた能力で、国を豊かにして、  
若者たちに職を与え、夢を与える。

今の日本には、そういう、国民に敬愛される指導者がいない。

立派な人間が出てくると、愚劣な人間たちが、  
足を引っ張る。追い落とす。

だから、日本は、ちっとも元気が出ない。

皆、おろおろしている。指導者が、国民から軽蔑されている。

諸外国と較べて、どうしても、このように見える。

このことが、日本国の最大の危機である。

アメリカによる、日本国からの大きな収奪（しゅうだつ）、  
資金の強奪（ごうだつ）が続いている。

私は、ここの20年間、ずっと、自分の金融・経済本で書いてきた。

今では、日本は、アメリカに、隠れて、裏から、貢がされている、  
資金が 最低でも、1200兆円（10兆ドル）ぐらいある。

この40年間の間も、それらは、毎年、どんどん、積もっていった。

この累積の「融資」残高、1200兆円の、  
アメリカに強制的に奪い取られている、隠し資金のことを、

私が、いくら書いても、誰も信じようとしなかった。

だが、そろそろ、「そういうことだろうなあ」と思う、  
人たちが出てきている。

だいたい、毎年、30兆円（3000億ドル）ぐらいを、  
アメリカの国家財政の赤字（不足分）を、補うために、貢いでいる。

その担保（保証、プレッジ）は、米国債という、紙切れである。

だから、アメリカ政府の公債（国家借金証書）を、「買う」という形で、アメリカに融資している。貸している。

おそらく、この1200兆円は、踏み倒される。

アメリカ帝国が、急激に落ち目になって、信用をなくすときに、

1ドルは、80円、60円、40円・・・と下落する。

だから、アメリカは、日本からのこの、米国債買いの形の、  
借金（負債）を踏み倒すだろう。

このようにして、次の時代、次の世界が始まる。

それは、これから、5年先（すなわち、2024年）のことだろう。

安倍首相は、先週、トランプ大統領 に、ゴルフに誘われて、  
チンコロ忠犬、ポチ公のまま、何でも卑屈に、アメリカ帝国の言いなりにな  
ることで、自分の立場を守っている。

アメリカと、対等な交渉をする、ということが全く出来ない。

言いたいことを言うことが出来ない。だから、相手にバカにされる。

軽く見られる。そのように長年、仕組んだ、アメリカも悪い。

another Ozawa 「アナザー・オザワ」すなわち、  
もう一人別の新しい小沢一郎

( 田中角栄の後継ぎ、真の日本の民族主義者、ナショナリスト。  
帝国と真剣に交渉する属国の王 ) が、出てくるのが、

アメリカとしては、困る。

そうでなければ誰でもいい、ということだ。

安倍は、4月27日に、首脳会談の時に、トランプに対して、  
「4. 4兆円の、アメリカ製の軍需品 を買うと、  
この場で最終的に決断しますから、どうか新天皇に会いに来て下さい。

これが、正式の最終のお願い（取引）です」と言った。

そして、来たる5月27日（日）、28日（月）の  
トランプ訪日を公式に決定した。

トランプは、きっと大相撲の最終日（千秋楽、せんしゅうらく）に蔵前の  
国技館の、土俵に現れて、決勝戦 を観戦した上で、

必ず、土俵に上がって、優勝カップを、  
優勝力士に与える儀式をやるだろう。

昔、パンナムの名物（めいぶつ）会長が、  
やったように、「ヒョーショージョー（表彰状）ジューヨー（授与）」  
をやるだろう。

パンナム PANNAM は、もうかなり前に無くなった米航空会社だ。

トランプは、プロレス興行が、大好きで、  
自分も興行主（こうぎょうぬし。プロモーター）をやっていた男だから、  
プロレスと、相撲が同じものだと、知っている。

相撲取りの褌（ふんどし。ローイン・クローズ loin cloth）姿を、  
嫌わない。

ビルとヒラリー・クリントンは、嫌って、大相撲を見に来なかった。

世界中からは、きっと、日本の 相撲取り（英語では、 sumo  
wrestler スモー・レスラー と言う）の、あの褌姿（ふんどしすがた）は、  
民族の伝統衣装とは言え、みっともないものなのだろう。

こういうことは、誰も言わないので、私のはっきりと書いておく。

## 各種の格闘技の奴隷戦士たち

(フットボールでも、バスケットでも、サッカー、ボクシングでも同じだ。  
競馬の馬主も。古代ローマの剣闘士=グラディエーター=も ) を、

自分でオーナーとして飼うことは、  
ある種の支配者、権力者、大金持ちにとっては、無上の喜びなのだろう。

今や、独裁者である、トランプは、

「こいつ (安倍) は、私の言うことを何でもきく、  
頭の足りないやつだ」と、軽く扱っている。

この事実を、一番、惨 (みじ) めに噛みしめているのは、  
当の安倍首相本人だろう。

日本国民の大半も、「もう、安倍、辞めろ」と、思っている。  
アメリカ (トランプ) と、対等に、激しく、厳しく交渉する  
人間が出てこない、日本はダメなのだ。

安倍晋三 は、来年の8月 (炎天下だぞ) の、  
2020年の東京オリンピックの開会式までは、  
首相の席にしがみついて花道を飾ろうとしている。

そして、そのあと、9月に、自民党の総裁選で、次の首相が決まる。

さあ、「令和おじさん」の 菅義偉（すがよしひで）官房長官が、  
次の首相になる、いや、アメリカが、「菅（すが）でいい」と、言うか。

次の属国の指導者として、アメリカ帝国が認めるか。

この問題は、あとの方で書く。 今年の3月から、公然と、  
「スガが次か」と自民党内で、騒がれ出した。

5月8日から、菅義偉は、官房長官（首相の女房役）なのに、  
留守をして、アメリカに呼ばれて、  
首実検（くびじっけん）を受けにゆく。

「果たして、こいつでいいのか。  
アメリカの言うことをちゃんと聞くかな。

文句を言わないで、カネを払うか。  
そして日本国内を、きちんと治めることができるのか」

の検査を受けに行く。

さあ、この重要な問題を、私は、予測、予言しなければいけない。

どうも、ウィリアム・ハガティ という、  
今の、駐日アメリカ大使が、動き回って、



トランプ政権に、この案、計画を持ち上げているようだ。  
ウィリアム・ハガティの周辺を調べなければいけない。

副島隆彦の「帝国 - 属国」理論の、公式（フォーミュラ）を、  
自然に当てはめると、

自分たち帝国が、ある国の、次の 属国の王 を決めるときの、  
帝国側の権限者は、アメリカ大使である。

だから、ウィリアム・ハガティが、動かないと、  
今のような、微妙な感じには、ならない。

・・・私は、たった今、決めたが、もう、

「菅義偉が、次の首相になるか」問題は、今日は書くのをやめた。

次回に回す。

今日は、天皇家の代替わりの話だけにしよう。

それで、このあとに、BBC(英国国営放送局)の、  
特派員の、新天皇の即位と、皇室のことについての、優れた記事があったの  
で、少し長いが、それを貼り付ける。これだけにする。

副島隆彦記

<http://www.snsi.jp/bbs/page/1/>

より

=====

以上です！！

それでいつもながらの副島節が炸裂していて  
すごい文章だ、と私は感じましたが

ここでやはり私たち日本人が知っておきたいのが

「

私、副島隆彦が、これまでずっと主張してきたとおり、  
日本国は、外側が、王国（キングダム、モナーキー）でありながら、

内側が、デモクラシー

（ 代議制民主政体、だいぎせいみんしゅせいたい）の、

二重構造の、「入れ子」構造の国 である。

立憲君主政（コンスティテューショナル・モナーキー  
constitutional monarchy）の国である。

この考えしか他には成り立たない。

」

っていうところですね。

立憲君主政にデモクラシー（民主主義といわれるけど  
正確には代議制民主政体）が入れ子になった構造、

これが日本だ、っていうことです。

ちなみに私はこの話は以前マレーシアの政治に詳しい人に  
説明する機会があつて、

すごい役立った知識だったのですが  
彼は日本の政治にすごい詳しくったんですね。

んで日本のことを色々私に聞いてきた人で  
GRAB っていうタクシーアプリの運転手してる人でした。

良い車だったからマレーシアに誕生している  
最近の中間所得層の人、であります。

それで彼というかマレーシア人というのは政治興味がすごい  
ある民族でして、

あまり日本人相手にそこまで話さない傾向はあるけど

ただ相手の日本人が英語話せると分かったら  
結構聞いてくるものなんですね。

んで私は質問攻めにあつたわけですが

一応日本はデモクラシーの国だ、っていうことで  
マレーシアでも言われるんだけど

けどじゃあなぜ天皇 emperor がいるんだ  
って質問を彼がしていた。

彼が日本に興味持って色々調べたらそこがとにかく  
疑問だったらしい。

というのは例えば日本のお隣の韓国のことを調べれば  
普通に大統領制であって、  
天皇はいないわけですね。

けど日本は天皇がいるわけで、  
マレーシアの政治に興味ある彼からしたら  
イマイチ分からないと。

んで私が以前副島先生に学んだので、

「日本は大きな入れ子構造の政治構造で、  
まず外側は 王国＝モナキーなんだけど、

その中に入れ子構造になっていて、  
デモクラシー（代議制民主政体）が入ってるんだ。

そうやって日本を見るとよく分かるよ。

けどまあ戦前のこともあったし、その辺はおおっぴらに  
言わないっていうことになってるんだ。  
隠す事になってる。」

って説明したんですね。

わたしも副島先生に色々なことを学んだけど  
最初衝撃を受けたのはこの辺でして

これをマレーシアの彼に説明したら感動してまして

「そうか！！やっぱりそうなのか！！  
やっと疑問がとけたよ！ありがとう！！」

とほんと感謝されました。

だからたぶん上の文章は当の日本人たちは

その副島先生のおっしゃってる価値は分からないかもしれませんが

外国人たちで日本に興味持ってる人に説明してあげたら  
すごい喜ばれる内容です。

特にマレーシアなんかも王様は複数いるものの  
少し似たような政治構造だったりするんで

マレーシアの人はこの説明ですごい喜んでくれます。

ただ私も一応

「ただ色々この辺は政治イデオロギーが関わる話だから  
当の日本人も知らないから

日本人にその話をするときには雰囲気考えたほうが  
よさそう」

という話もしてますね。

ちなみに外国人たちも空気を読むわけで  
「こいつは話しても大丈夫そうだな」みたいな人には  
色々話してくれるものです。

それであとこれも知っておくと

「なるほどな～だから日本はもう規制ばかりで  
役人たちが増長してるんだな」

と分かる話でもありますが

このように書かれてる。

「

この他に、ドイツのハンス・ケルゼンの  
国家学、憲法学、国法学（シュターツ・レヒト）を受け継いだ、

清宮四郎（きよみやしろう）、という悪い憲法学者がいて、

彼が、東大の 憲法の授業の、「憲法 I 人権」ではない、  
「憲法 II 統治機構（とうちきこう。すなわち、国家体制論。支配）」を  
受け持った。

「憲法 I 人権編」は、前述した、宮沢俊義（みやざわとしよし、  
しゅんぎ）が、受け持った。

このように、東大法学部の「憲法 I」で、「人権、人権、いろ  
いろの人権、人権のカタログ」と、教えておいて、

そのすぐあとに、清宮四郎が出てきて、バーン、と、  
「はい、統治（とうち。ガヴァーメント）」と教える。

この瞬間に、諸人権は、押え付けられる。

だから、「諸（しよ）人権は、無上、至上のもの」と教えておいて。

ところが、そのすぐあとに、「憲法Ⅱ」で、

「はい、統治」、「このように、国民を押え付けなさい」となる。

これが、官僚養成学校である、東大法学部の 秘密 だ。最大の秘密だ。

」

だから東大法学部ってすごいところであって

最初の人権は大事ですよ～という一応触りはやるんだけど

その後「はい、じゃあ思考を切り替えて、  
はい愚民を統治するぞ」

というまあすごい教え方しているわけですね。

それが今の官僚支配につながってるわけでした  
まさに統治されてるのが日本国民なわけです。



もう以前の小沢一郎のように官僚に楯突く  
本来の民族指導者も出てこなくなっている。

このように 東大生たちってのが清宮四郎の  
「はい国民をおさえつけなさい」

と教えられてそれで今に至るわけですが  
この東大という教育機関の恐ろしさ、ですよ。

今もこの官僚たちが中国の毛沢東顔負けの  
金持ち潰しを行っておりますし、

例えば

今はまさに行政の省庁たちと  
大企業の下請け、孫請けがその正体を隠しつつ  
法化院制度になって弁護士が増殖しすぎて

闇金問題なんかを過剰にとりあげて仕事を作ったものの、  
今はやっぱり仕事がないものだから  
法曹界ともくつついて、

それでネット業界をつぶすなんてことを  
しているわけですが

これも「統治」の一つですよ。

それでここで副島先生が書かれてる内容で  
これは大変重要な話だと私は思いましたが  
以下です。

国民主権、を言い過ぎるとどうなるか？という話です。

=====

「プロレタリアート（労働者階級）による、  
政治的な独裁（ディクテーターシップ）を、肯定する」という思想が、

どれぐらい、その後の、人類（人間）に、害悪と、迷妄と、  
残酷な結末を、もたらしたか。

ロシアの民衆、労働者にとって、大変な迷惑だった。  
中国民衆にとっても、極まりないことだった。

共産党の幹部や、高級軍人たちが、  
ロシアでは、80万人とかが銃殺刑になり、

400万人ぐらいの民衆が、シベリア送りになった。

中国でも、あの文化大革命（1966年から1976年の10年間）で、  
2300万人の  
党幹部や、民衆が殺された。

今、人類（人間）は、この2つの大（だい）実験の大失敗の、  
大きな反省の上に立って、生きている。

一番、苦しんだのは、当の、ロシア人と、中国人だ。

=====

これが私は大変大事な指摘だと思ってまして、

同時に副島先生が国民主権という言葉について、

「それは「お客様は神さまです」に、近い、  
「消費者（しょうひしゃ）主権」というコトバの、馬鹿らしさ、  
とよく似ている。」

とも触れていますが

この上記で引用した部分の「つながり」が分かる人は  
きっと少ないので説明します。

ちなみに国民主権と言いすぎると結局のところ

主権なんか国民にはない、つてのが  
なんとも厳しい私たち人類の現状ですが

そこで一応形だけ国民に主権があるなんていうわけだけど  
そこで必ず行政部門が増長していくわけですね。

簡単に言うと

「金持ちは悪だ！労働者こそ正義だ！」

つていう思想が台頭していくのですよ。

この金持ちつてのは経営者や投資家たちのことであつて  
今でも日本には通販業界であつたりとかネット業界だつたりとか  
あとは居酒屋の業界だとか夜の水商売の業界には

世間に色々言われつつもなんとか利益出してる若い人つてのが  
いるのだけど、

この若い経営者や投資家たちつてのが

まさに

$Y = C + I$

っていうケインズの言葉の中の

「I」に当たる人たちで金持ちに該当する人たちです。

Cというのは労働者であります。

それでこの「労働者たちが主役だ」とやってしまうとどうなるか？

といいますと

それはもう結果が出ていてまさに上に副島先生が

書かれてるように

中国の毛沢東時代、ロシアのスターリン時代のように

なっていくわけですね。

ちなみに当時中国でも「金持ち潰し」が行われていたけど

今の日本でもそれが行われてるのを感じ取ってる人も

私の読者なら多いはずです。

最近の「行政による若い中小事業者潰し」

つてのはもう消費者庁に対してもダイニチ堂さんなんか

消費者庁が憲法21条に違反してる、

ということで訴訟をしたりしますが

実は深刻なことになっている。

ここで東大で「統治」を学んだ彼ら官僚たちが

最近では憲法 21 条の言論表現の自由を骨抜きにしよう  
という動きに出ています。

それでここでは美辞麗句が使われるのだけど、  
キレイゴトが使われるのだけど

それが

「それは「お客様は神さまです」に、近い、  
「消費者（しょうひしゃ）主権」というコトバの、馬鹿らしさ、  
とよく似ている。」

という内容だけど

これは労働者こそ主役だ、というものに大変似ていて  
まあ左翼的なものであるけど

ここで一気に行政は  $Y = C + I$  の  $I$  に該当する  
経営者、投資家たちを一網打尽にできるんですね。

中国の毛沢東時代、ソ連のスターリン時代のように  
金持ちをぶっ潰せば、

行政官僚たちの強さは磐石になります。

そして彼らは天皇さえもコントロールしようとしている。

ちなみにですがグーグルで

「金持ち潰し」と検索しても

全く上記のような本質を突く記事は検索結果に出ないように

情報統制もされております。

たぶん最近の日本で

「なんか規制規制、で息苦しいな」と思ってる人は

きっと多いでしょう？

けどこれは歴史を理解していれば分かる話で

中国の文化大革命の毛沢東時代に沢山の金持ちたちが

粛清されたように、

今の日本も実のところステルス化して

というか最近はまだ見えますが

この中国の毛沢東時代と同じ動きになっている

ということです。

ちなみにこれらの反省を生かして最近の新興国は動いていて  
中小の、若い起業家や投資家を育てないと

結局社会はうまく回りません

っていう話で若い起業家や投資家をとにかく育てようと  
しているけど

日本の場合はまさに東大で「統治」の授業を受けた  
官僚たちがこの若い投資家、金持ちを潰そうとしている

という大きな構造が分かっていると全てが（恐ろしいほど）  
見えてきます。

私は副島先生がぎりぎりの線を保ちつつ  
言論人としてそれを言及されてる立派さを理解するので

今回引用させていただいてるのですが  
いかんせん、多くの人がこの恐ろしい日本国家全体の動きについて  
分かっていない。



ただ多くの人がなんとなく  
「規制規制で息が詰まってどんどん  
私たちは統制されてきてるな」

くらいは気づきだしてるけど

それを「噛み砕くと」上のような話です。

行政やさらに行政と癒着した士業なりの言う  
キレイゴト、美辞麗句の裏には

実際にはそのような思惑がある、と大人なら気づかないと  
いけないです。

「  
立派な人間が出てくると、愚劣な人間たちが、  
足を引っ張る。追い落とす。  
」

とも書いてありますが、

この様な光景を私たち日本人は  
毎日のように見せ付けられている。

どうみても立派で素晴らしい人であっても  
官僚たちに操られるマスコミによって人格攻撃をされて

社会全体から叩かれて消えていく人たちの  
なんと多きことでしょう。

どうも今の日本は副島先生が上に指摘されてる

昔の

中国とロシアの道をたどっているのはどうも間違いない。

そしてそれを指摘する人もほぼほぼ消え去っており、  
みな行政が A とでも言えば  
A を肯定するような言論であふれかえるのが日本です。

ここでどんどん行政の肥大化が進んでるわけですね。

その結果若い人は  
「這い上がる方法」が一切なくなります。

今はなんとか FX とかネットビジネスとかがあるけど  
どうも日本の行政としては

「若い人間が台頭して金持ちになるルート」を  
全潰ししようとしている。

「売り上げ高が高い、若者中心の業界から  
順番に叩き潰す」

というこの動きはあまりにも分かりやすい動きで  
最近顕著です。

その結果、若者は這い上がる方法を失う。

そして今や若者は、這い上がる方法がないものですから  
アルバイトや派遣でなるべく消費欲を持たないようにして

生きているわけで私はそれを経験してるから  
よくわかります。

ただここであらゆる業界が役人たちに潰されていくわけですが  
そこで、「じゃあその業界は私たち大企業と官僚たちで  
タッグを組んで管理していきましょう」

となるわけで

暗号通貨行政なんかはまさにそれでしたが  
仮想通貨新団体という新しい天下り団体ができましたが

このようにして 若者の這い上がる手段が  
制限されまして、

「既存の既得権益層だけ階級が固定化する」

ということが

起こるようになっております。

例えば、多くの若者が這い上がる商売なり的手段を  
持っていて、這い上がれるならば

階級社会化というのは問題にならない。

上に居る人たちも投資や事業で後進の若者に追い抜かれて  
どんどん上下が入れ替わるなら、それはそれで  
不満というのは社会にたまらない。

が、日本の場合はここで既得権益層のおじいちゃんたちが  
どんどん階級を固定化してきており

若い起業家、投資家を潰すという動きに出ておりまして  
ここでもう階級が固定化されているわけですね。

最近出てきた「上級国民」という言葉はまさに  
この階級の固定化の問題があります。

それは問題としては  
大企業の独占状態が放置されていること、  
また官僚たちがその大企業と癒着してるということ、

これらで階級固定化が起こっておりますが、

その中

若い人たちってのは起業や投資で成り上がるのが  
他国と比べて極めて難しい状況であり、

最近唯一あったネット業界も消費者庁に潰されそうな勢いである。

その結果どうなるか？というと  
出てくる社会は

「大企業と官僚の癒着した体制で  
民衆が大企業と官僚に支配される体制」

でありまして、

ここで民衆は貧乏なまま、です。

起業しよう、投資しようとしても規制ばかりで  
立ち上がれない。

若者は大企業の下請けか孫請けで  
どうしようもない仕事しか非正規で見つけられなくなる。

スーパー格差・階級社会となる。

これが今の日本で起こってる事である  
と私は分析してます。

そんな中でやはり副島先生みたいに  
俯瞰して、現状を描写する言論人の言う事は  
大変貴重ですね。

そういう意味で私たちはやはり考える時期にあると  
思います。

それでは！

ゆう

追伸・・・ちなみにユーチューバーのユタボンが叩かれている。  
が、どうも見ると叩いてる人たちは

「官僚側」の人たちであって  
まさに上で言う「民衆を統治する、支配する」の思想の人たち  
であると分析できます。

あの ゆたぼん君の問題があそこまで大きくなるのは理由が  
あります。

それはつまり「教育権」の問題である。

これは政治学を学んで出てくる話だけど

**「子供の教育権は国家にあるのか家庭にあるのか」**

の問題であります。

ちなみにこれはもうマレーシアでは論じられてる問題で

だからマレーシアでは「学校に行かずホームスクール」  
というのが普通に、日常で定着してます。

ちゃんとそこから大学にいける道も整えられつつある。

マレーシアの場合は教育権を家庭に認めてるわけですね。

が、日本の場合は違う。

東大出身者の本来の思想は実際は共産主義思想が

極めて強いと分析できますが

(意識的であれ、無意識的であれ)

共産主義などの体制においては、

例えば毛沢東だったりスターリン時代において  
当然教育権は家庭にありません。

教育権は国家に属する。

すなわち「子供は国家の子供」になるわけですね。  
概念として。

んでゆたぼんってのはその「国家の子供」になるのを  
拒否した子供であって

当然左翼は怒る。

ちなみにこれは重要な点で  
日本で右翼と呼ばれてる人たちの思想は  
左翼なのですよ。

完全に国家社会主義であって国家社会主義を  
右翼とは呼びません。

どちらかというユタボンの思想こそが  
右翼とか保守に本来は近いのだけど



日本人はこの右翼とか左翼の意味が  
分かっていない人が多数です。

だからだまされる。

国家が教育を統制するのを是とするか  
家庭が教育権を持つのを是とするか

という大きな議論がありまして、

日本の場合は共産主義的な国家が教育権を全部持つというのが  
普通に信奉されてる国であるから、

このユタボンが叩かれるわけですね。

よくよく見るとゆたぼんを叩いてる人たちは  
極めて謎な、

職員のようなアカウントが多いのはそれが理由です。

国家が教育を行うべきだという考え方と

昔の日本に寺子屋などで  
馴染みある民間で教育を行うべきだという考え方の

大きな対立があるのだけど

ゆたぼんの主張というのはそれに突っ込んでしまってるから

一気に国家体制から反逆を受けてるわけですね。

だから政治の大きな枠組みが見えてると  
何が小さなニュースの中で本当の本質の議論になってるか

も全部分かりますね。

それで私たちはそれに対して無知でも今までは  
なんとかなったけど  
最近はそうじゃないので

やはり学んでいく必要があります。

それでは！

